

## 地域計画特論(6) 空海思想(土木技術と実践的宗教)

### ■空海の生い立ち

### ■三教指帰

### ■虚空蔵菩薩救聞持法

### ■密教の伝授

### ■最澄と空海

### ■密教の体系化



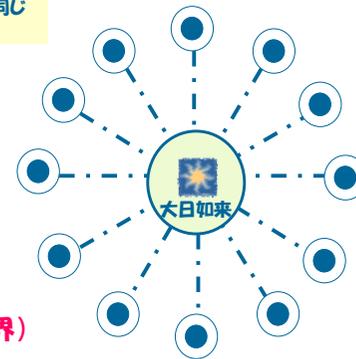
### ■これまでの復習(顕教と密教)

仏教の分類(1)・・・小乗、大乘  
仏教の分類(2)・・・顕教、密教

密教は大乗仏教の一部  
といえないこともないが、  
もともと分類軸が異なる  
(最澄と空海思想の相違)

- ・顕教:あきらかな教え
- ・密教:秘密の教え

もともと「マハーヴァイロー  
チャナ・ブッダ」という同じ  
ほどこである。



毘盧舍那仏(奈良の大仏) 大日如来(金剛界)  
顕教の仏(東大寺は華嚴宗) 密教の仏

### ■空海のおいたち

宝亀5年(774)讃岐多度郡(たどのこおり)屏風浦に生まれる  
(現在の香川県善通寺市善通寺)

父は地方豪族の佐伯直田公(あたいたきみ)、母方は阿刀氏  
(あとう)、幼名は真馬(まお)

伯父の阿刀大足(おおたい):桓武天皇の皇子の侍講をした学者  
に漢籍に親しんだ。

12歳で讃岐の国学で学ぶ。

15歳で伯父の勧めで都に上がる

18歳で大学に入学を許される

<当時の大学は朝廷の役人を養成する機関で、卒業生は中央の  
高官になる道が開けていた>

「博く教史を覧しかども、専ら仏經を好む。恒に思ふ、我が習ふ所の上古の  
俗教は眼前都て利弼なきをや。一期の後、この風すでに止みなん。真の福  
田を仰がんにはしかし。」「御遺告」

### ■三教指帰

空海24歳のときの著作、少年時代からの思想遍歴を思想劇  
の形で物語る。

亀毛先生(きぼう)が登場して、遊蕩三昧の生活を戒める(儒  
教)、つぎに虚亡隠士(きょぶ)が現れ、人倫の道を説く「儒教」  
より不老不死の神仙道を求める「道教」の方がすぐれている。  
最後に、乞食のスタイルの仮名孤児という優婆塞(正式の得度  
を得ない修行者)が、儒教・道教に勝るものとして仏教がある  
ことを説く。

青年空海は、儒教・道教を排撃したのではない。あらゆる思想や  
哲学や宗教をつつんで、それぞれの持ち味を生かしながら総合的  
にそれらを統一するという思惟方法の芽生え。

## ■虚空蔵菩薩求聞持法

「一人の僧侶が私に「虚空蔵菩薩求聞持法経」を教えてくれた。その経文のなかには、「もし正しい方法によって、ここに示してある真言を一百万回となえると、あらゆる經典の文句をすべて暗記することができる」と記してある。

…すなわち、阿波の大滝山にのぼり、土佐の室戸岬で坐禅をした。はたして谷はこだまし、明星が姿をあらわし、奇蹟を示した」(「三教指帰」)

### 虚空蔵菩薩

なにもない虚空から、知識の宝物蔵として限らない知恵を取り出し人々に与える仏

### 求聞持法

一度でも見たい聞きたいしたことを、決して忘れることがない

## ■虚空蔵菩薩求聞持法の修行



- 1) 虚空蔵菩薩の図像を用意する(絹布または浄板)日めくりカレンダーのような布の覆いをつける。
- 2) 一般世界となるべく隔絶して集中力を高める。修行用道具以外の持ち物が全くないことが理想。日の出時間から修行を開始できるようにする。
- 3) 100日行、200日行、1000日行がある。日の出とともに、本尊の前にすわり、結跏趺坐を組む。塗香(ずこう)を腕などに塗り、鐘もしくは鈴を鳴らす。
- 4) 虚空蔵菩薩の真言を唱える(開始)  
「オン・バサラ・アラタンノーオン・タラク・ソワカ」
- 5) 1日1回次の真言を100万回を唱える<おどろく間違い>  
「オン・バサララタヤ・ウンナム・アカーシャ・ラバ・オン・アミリキヤ・アリボ・ソワカ」

## ■空白の7年間

空海の24歳～31歳(雌伏の7年間)の消息は不明である。密教を大乘仏教の究極の形態であると確信して、入唐して密教を学ぶ決意をしたものと思われる。

三界(迷いの世界)の狂人は狂せることを知らず。  
四生(生きとし生けるもの)の盲者は盲なることを識らず。  
生まれ生まれ生まれて生まれ生の始めに暗く。  
死に死に死んで死んで死の終わりに冥し(くらし)。  
「秘蔵宝鑰」

苦悩の時代であり、立身出世の手段であった儒教も、不老不死の理想を説く老荘思想も満足ではなく、仏教の中に深い生死の知恵をみた。また雑密に関する知識を多く学んだと思われる(フリーの立場の私度僧であった)。

## ■遣唐使船の乗船



最澄(767～822)は天台宗の還学僧で、空海(774～835)は留学僧であった。

空海30歳のとき、遣唐使船は(藤原葛野麻呂(かどのまろ)が大使)は難波津を出発していた。<最澄乗船>  
24ぶりの派遣…出帆6日目に暴風に会い、一行は京にもどる

空海は機敏に得度し官僧になる。乗船には大和佐伯今毛人(いまえみし)関係のひとびとの推挙によると思われる。今毛人は故人であったが、土木建築行政長で、桓武天皇は土木好きである。造東大寺長官、造長岡京使を歴任。

延暦23年(804)夏の初め難波津(大阪市上町台)を出帆  
空海は第1船、最澄は第2船に乗船、全部で4船であった。  
橘逸勢(儒教の勉強)も乗船していた。  
一行は九州肥前の田の浦(長崎県平戸市田浦)を出帆した。

## ■中国への到着

当時の航海術は極めて危険で、4船のうち第1船と第2船のみ無事に到着(他の船は行方不明)。

結局34日間を漂流した。

到着したところ…福州長溪県赤岸鎮己南/海口

地方長官の命で船は封印を受けていた。

10日~20日この状態がつづいた。

藤原葛野麻呂がみずから文章を作って、地方長官に嘆願書を出したが~密輸業者だろうというように~見ても貰えなかった。

空海(一介の私渡僧)に依頼した。

「大使/為二福州/觀察使二与フル/書、一首」

中国の六朝以来の装飾の過剰な文体でありながら、論理の骨格があざやかで説得力に富む文章(中国語)を書いた。

## ■惠果と空海

苦難の旅の末、長安到着した(12月下旬)。

空海入京当時、西明寺に770年入唐の永忠がいた。

空海がいれかわりで西明寺に入った(2月11日)。

インド僧の般若三蔵から梵語(サンスクリット語)やバラモンの哲学などを学んだ。その他文学・書道などありとあらゆるものを日夜研鑽した。

空海は、西明寺志明・談勝ら五、六人と一緒に行って青龍寺の惠果に見えた。

「我れ先に汝が来たらんことを知り、相い待つこと久しかいつ。今日相い見ゆ。はなはだ良し、はなはだ良し。」

## ■密教の伝授

この年の6月上旬に空海は惠果にしたがって、学法灌頂壇に入り、作法に従い胎蔵曼荼羅に花を投げたところ、中台大日如来の身上に着いたので、惠果はこの不可思議を讃嘆した。

さらに7月上旬に金剛界曼荼羅の灌頂を受けたところ、ふたたび大日如来の投華得仏したので、惠果はふたたび讃嘆した。

8月伝法阿闍梨位の灌頂を受けた。  
(密教の最も奥の秘法)

密教は資格を持った阿闍梨から弟子へと瓶から瓶へ水を移すように伝える。

12月15日、惠果入滅する。



(金剛界曼荼羅)

(胎蔵界曼荼羅)

## ■密教の伝授

金剛頂系 金剛智 - 不空 - 惠果 - 空海

大日経系 善無畏 - 一行

惠果は不空の筆頭弟子ではないが事実上の付法の弟子。「大日経」と「金剛頂経」をセットとして確立した。

806年(大同元年)9月空海帰国する。朝廷に「請来目録」を献上する。216部461巻の密教経典、仏像、曼荼羅など10誦、道具9種、唐の文学作品など多数。809年までの3年間は、大宰府に止住する。(密教流布の準備をしていたものと思われる)最澄は前年に帰国している。

## ■平安仏教の経過

最澄と空海の関係から平安仏教の動向を検討することができる

- 804(延暦23):空海、最澄、入唐
- 805(延暦24):最澄帰国
- 806(大同1):空海帰国、朝廷に「請来目録」を献上、桓武天皇没、平城天皇
- 809(大同4):嵯峨天皇即位、空海、入京を許される
- 810(弘仁1):薬子の变、空海直後に高雄山寺で鎮護国家の修法
- 812(弘仁3):最澄、空海から両部の灌頂を受ける
- 816(弘仁7):空海、高野山を開創、「理趣釈経」の貸与を断る
- 821(弘仁12):空海、満濃池をつくる
- 822(弘仁13):最澄没(56歳)
- 823(弘仁14):東寺、空海に授けられる
- 828(天長5):空海、綜藝種智院を創設
- 835(承和2):空海寂(62歳)
- 838(承和5):円仁入唐
- 866(貞観8):最澄に伝教大師、円仁に慈覚大師の諡号が贈られる
- 921(延喜21):空海に弘法大師の諡号が贈られる(醍醐天皇)

## ■空海と最澄(1)

812(弘仁3):最澄、空海から高雄山寺で両部の灌頂を受ける  
12月14日胎蔵灌頂を受けた。  
最澄以外に、弟子の光定、泰範、円澄など計145名(童子45名を含む)

### 三種類の灌頂

- 1) 結縁灌頂(けちえん)・・・縁をむすぶだけ、在家へのサービス
- 2) 受明灌頂(じゅみょう)・・・行者に対して秘法の一部を伝授する
- 3) 伝法灌頂・・・密教の法をすべて伝授する儀式

最澄と空海の絶交はこのあとにきている。  
翌年最澄は弟子、泰範、円澄らに空海から密教を学ばしている。  
その後「理趣経借用事件」「泰範事件」がおこる。

## ■空海と最澄(2)

「理趣経」借用へのごとわりの手紙・・・ほとんど絶交状？

「あなたは「理趣経」を借りたいと言っていますが、理趣ということはなんのことかご存知ですか。理趣、すなわち道理には3種あります。耳で聞く理趣、それはことばです。・・・目で見える理趣、それは物質です。・・・心で思う理趣、それはあなたの心です。どうしてよそに求める必要がありますか。あなたにはそのことがおわかりにならないのです。・・・あなたは真理を紙の上のみ見る人のおようであります。紙の上より、真理はあなた自身のなかにあるのです。・・・あなたは行をおさめましたか、あるいは行をおさめる気があるのですか。行をおさめるより、いたずらに、字面だけで密教を知ろうとすること、それは本末転倒のはなはだしいものです。もし本当に密教の道理を知ろうと思ったら真の密教僧となり、行をおさめる支度をしてください。そうしたら喜んで密教を教えましょう。がんばってください」

ここにおいて空海は最澄必要としなくなっていた。桓武天皇(先々代)から嵯峨天皇の時代に変っていた。

## ■空海と最澄(3)

泰範事件は最澄と空海の間をさらに決定的なものとした。  
最澄が重んじていた弟子泰範が、比叡山を去って空海の弟子になった。  
最澄はしばしば帰山をすすめたが、聞き入れなかった。  
泰範は以降あまり真言宗で重用されたようでもない。

最澄:「法華一乗と真言一乗と何の優劣か有る」  
(最澄は一步譲って、そちらの教えもこちらの教えも同じ)

「顕密の教、何ぞ浅深無からむ。法智の両仏、自他の二受、顕密説を別にして、権実隔て有り。又自行に則有り、化他に位有り。澄瑩すれば物に應ず。空海、未だ六浄除蓋の位に達ばざれば、誰ぞ能く出仮利物の行に堪えむ。利他の事は悉く大師に譲りたてまつる。

密教における煩惱の肯定、煩惱を離れてどこへいくのか。  
自分の生命を肯定する仏教の知恵⇒他利より自利の道へ

## ■真言宗と天台宗



### 最澄の仏教

最澄は、事件以降ますます闘争的になる。特に南都宗と争い、戒壇建立(正式に僧の資格をとれる)の許可がおりないうちに没する。天台宗はその後、顕教の総合大学化。

空海は、その後多数の著書を書く。すべての仏教を含む仏教である密教を総合哲学化する。実践においては他宗と和解的に密教の勢力を拡大していく。⇒「秘密曼荼羅十住心論」

### 空海の仏教

## ■満濃池

弘仁12年(821)讃岐の満濃池  
(大規模貯水池)  
6月～8月の3ヶ月間  
丸亀平野3500町歩(約347ha)  
香川県多度郡満濃町



密教によれば、みずからはどこまでも高い宗教的真理を追究するとともにおのれのさといを求めることを差し置いても他の者を救済し、他に利益を与えることにつとめなければならない。

讃岐国の国司より朝廷に依頼: 当地(佐伯氏)の出身  
工事に参加した民衆から慕われる人望、空海本人の土木工事の知識、渡来系技術者集団との交流などがあって高度な技術が導入できた。

### 平安時代の土木事業とPIが成功したもの?

## ■綜藝種智院

天長5年(826年)東寺の東隣に学校を開設した。  
綜藝種智院: わが国最初の庶民学校であるだけでなく、その後においても類例がない。

長安における教育施設の見学・調査が学校の創設のもとになる。

当時の官吏養成機関にすぎない貴族学校のあり方を批判した:

学問芸術はすべて大日如来の絶対智の現われであるという根本理念にもとづいて綜藝種智院と名づけられた。

### 教育の四条件

- 1) 教育環境がよいこと
- 2) 学問の総合教育による人間形成
- 3) 多くのすぐれた教師が必要であること
- 4) 教師と生徒の生活を保障すること。



綜藝種智院

わが国最初の辞書「隷万象名義」30巻を編集した

## ■今回の講義ではなしがたりないこと:

空海の業績は膨大であり、また思想的にも興味ふかい点が多く、今回で述べられていないことが多数あります。

- ・大日如来の知恵
- ・三筆
- ・金剛峰寺の設立のはなし
- ・東寺の構成論
- ・秘密曼荼羅十住心論
- ・空海の入定
- ・弘法大師信仰
- ・四国八十八箇所巡礼
- ・以降の真言系宗派

⇒一部は機会をみて話します。  
各自勉強してみてください。



## ■今回の参考文献

1. 松長有慶: 密教・コスモスとマンダラ、NHKブックス、日本放送出版協会、1985.
2. 頼富本宏: 密教 悟いとほとけへの道、講談社現代新書、1988.
3. 宮坂宥勝・梅原猛、仏教の思想9 生命の海〈空海〉、角川ソフィア文庫、1996.
4. 司馬遼太郎: 空海の風景(上)(下)、中公文庫、1994.
5. 花山勝友: 図解密教のすべて、PHP研究所、1994.
6. 金岡秀友: 密教の哲学、講談社現代新書、1989 .
7. ひろさちや: 密教の読み方、徳間文庫、1990.
8. Books Esoterica 密教の本 驚くべき秘儀・修法の世界、学習研究社、1992.